

令和5年度 第2回 国立大学法人北海道大学経営協議会議事要旨

日 時 令和5年9月14日(木) 10:00~12:12

場 所 北海道大学 事務局 大会議室

出席者 21名

(学外) 岩永、大槻、河合、小坂、サコ(WEB)、杉江、土屋、藤井、松沢、
三輪、渡辺 各委員

(学内) 寶金、山口、横田、増田、山本、高橋、菅原、行松、梅原、渥美 各委
員

欠席者 1名

(学外) 五十嵐 委員

(オブザーバー)

高橋監事

議 事

議事に先立ち、令和5年度第1回経営協議会の議事要旨について確認があった。

【 議 題 】

- 1 令和5年度国立大学法人ガバナンス・コードに係る適合状況の報告について
総長から、資料1から3に基づき、令和5年度国立大学法人ガバナンス・コー
ドに係る適合状況について説明があり、審議した結果了承された。
引き続き総長から、今後、役員会の審議を経たうえで本学ホームページに公表
する旨発言があった。

(主な意見)

- ・ HU VISION 2030 は第4期中期計画より後に作成された。中期計画の変更が容易ではないことは承知しているが、本来、中期計画はビジョンに基づき作成すべきものである。

- ・部局の中期計画も、大学全体の中期計画に連動するものとして評価されることが望ましい。
- ・ビジョンは大学が組織として目指すものである。執行部が変わっても目指す方向は変わらないと捉えてほしい。

2 北海道大学質保証報告書について

総長から、資料4に基づき、本学の質保証の実施状況を「北海道大学質保証報告書」として公表することについて説明があり、審議した結果了承された。

引き続き総長から、今後、学内会議の審議を経たうえで本学ホームページに公表する旨発言があった。また、軽微な修正については総長に一任願いたい旨発言があり、了承された。

(主な意見)

- ・ワイン産業の振興やサーモン等の養殖への取り組みには、北大の力が非常に大きく、北海道の元気作りにつながっている。今後も北大と連携しながら事業を進めていきたい。
- ・地熱発電所の掘削現場から噴出した蒸気にヒ素が検出され、風評被害が発生した重大な課題に対して、北大には研究者の紹介など、迅速に動いていただいた。
- ・先住民研究は、北大が他大学との差異化や価値の創造に向けてリーダーシップを発揮できる分野である。今後も研究や啓蒙・広報を進めてほしい。
- ・ダイバーシティ&インクルージョンに関し、推進本部が設置されているので、質保証としても報告できる成果を期待したい。
- ・アンビシャス特別助教制度において、性別の観点だけでなく、研究分野や国籍についても多様な人材を採用できるようにするとされており、日本の課題である若手研究者の育成に大きく貢献すると思う。制度の広報や採用した人材をどう育成していくかという点にも丁寧に取り組むとよい。
- ・質保証やHU VISION 2030は構成員である学生や、社会にも理解してもらうことが大事である。授業の中にちりばめることで、大学の価値を上げていくことにつながる。
- ・原子力工学は様々な形で科学的な評価がなされるべき分野であり、原子力工学に関するオープン教材が、他大学や高専など、多くの方の目に触れる機会

があるのはいいことである。

3 経営協議会学外委員の再任回数・任期について

総長から、資料5に基づき、経営協議会学外委員の再任回数及び任期の変更について説明があり、審議した結果了承された。

引き続き総長から、規程の改正は1月開催の経営協議会に附議する旨発言があった。

【 報告事項 】

1 令和6年度概算要求（財務省要求）について

総長から、資料6及び7に基づき、令和6年度概算要求（財務省要求）について報告があった。

2 「北海道大学 統合報告書 2023」の発行について

総長から、資料8に基づき、「北海道大学統合報告書 2023」を発行した旨報告があった。

（主な意見）

- ・ 入学者の道内比率の低下については、北海道は魅力的な地域で全国から学生が集まっているとも言える。入学者選抜におけるバランスについては、様々な観点から検討いただきたい。
- ・ 社会がこれだけ変化している中で、入試の選抜方法が変わらないとひずみが生じる。社会の変化をとらえる若い人たちが何を望み、どのように育つのかという考えを基に検討いただきたい。
- ・ 本報告書は画像が多く見やすい。
- ・ 道内比率の低下は、北海道の産業が衰退し、過疎化が進んでいることが最初の問題である。単に入試のハードルを下げるのではなく、北大が地域産業に貢献し、地域の関心を呼ぶことが大切である。
- ・ CDP 気候変動質問書 2022 に回答書を提出したことや、30by30 アライアンスに参画したことなど、国際的に認知度の高い活動に取り組まれていることは非常に素晴らしい。
- ・ SDGs の達成は困難ではあるが、達成しなければ未来はない。

- ・入試においては、ポテンシャルを評価し合格させることも重要である。ハーバード大学などはアドミッションオフィスが強く、ペーパーテストで劣ってもやる気がある学生を見出している。

3 平岸住宅跡地の活用方針及び文部科学省への認可申請について

総長から、資料9に基づき、職員宿舎のうち平岸住宅の跡地について、今後の活用方針を定め、貸付に向けた手続きとして文部科学省へ認可申請を行った旨報告があった。

4 北海道大学オープンイノベーションHub「エンレイソウ」の設置について

総長から、資料10に基づき、ファカルティハウス「エンレイソウ」を改修し、オープンイノベーションHub「エンレイソウ」として設置することについて報告があった。

(主な意見)

- ・スタートアップは北大や日本にとって極めて重要なものであるため、積極的に活用していただきたい。具体的には、アントレプレナーシップの教育、スタートアップを支える人材、ベンチャーファンドの資金獲得、大学教員自身のマインドセットの改革が大事になる。
- ・北海道としてもスタートアップ支援を進めているので、北大とも協力していきたい。
- ・単なる学生のたまり場になることがないように、コンシェルジュの配置や、情報発信など、運営に工夫が必要である。中小企業でも気軽に使うことができるような工夫も必要である。
- ・キャンパスにはエンレイソウ以外にも遠友学舎や北キャンパスの研究施設などがあるので、学外の人を使いやすいように、学内資産の有効活用を検討いただきたい。

【 その他 】

1 令和5年人事院給与勧告について

総長から、資料11に基づき、令和5年人事院給与勧告について説明があった。

引き続き総長から、今後の国の動向を見極めた上で、本学においても、国に準

拠する方向で調整を進めたいと考えており、関連就業規則等の改正にかかる必要な対応については、総長に一任願いたい旨発言があった。

【 意見交換 】

1 半導体関連拠点について

「半導体関連拠点について」をテーマに、山口理事から資料 12 に基づき説明があった後、種々意見交換が行われた。

(主な意見)

- ・ ラピダスの成功には人材、技術、資金、スピードが大事といわれている中で、北大としては人材、半導体関連技術の開発による貢献が必要である。
- ・ 道内の大学や高専と連携し、オール北海道で対応していくことは素晴らしい。
- ・ ラピダスには、1980～90 年代に追随するやり方にならないよう、現在はダイバーシティの観点が必要となってきたこと等、昔とは事情が違うことを認識してほしい。そこで、人材育成に関する新しい方法を北大が示し、新しい半導体産業を作ることを期待する。
- ・ ラピダスは北大の人材供給に期待している。北大の学生は就職先がないために道外で就職する傾向にあるが、ラピダスとその周辺に大規模な集積が見込まれる関連企業はその受け皿にもなり得る。
- ・ 他大学や北海道全体とのネットワーク形成を期待する。
- ・ 今の半導体技術者は多くが 50 歳以上であり、教育できる人材の確保が難しいことと、学生には半導体の人気がないことが課題だと思われる。
- ・ 北海道に新たな次世代産業ができることに大きな期待をしている。
- ・ 研究開発拠点である LSTC（技術研究組合最先端半導体技術センター）に北大が加入したことにより、トップレベルの研究を進められることは、大学として非常に重要なことである。
- ・ 北海道には半導体の素地がないので、道内にどのような力があるか足下をよく見て、現状把握をしっかりと行うことが重要である。
- ・ 汎用半導体の量産化をターゲットとしている熊本県と異なり、ラピダスは最先端の半導体を作るため、必要とされる技術のレベルが高い。フロンティアスピリットをもって取り組んでいく必要がある。
- ・ 北大の役割として、最先端半導体の需要を生み出す仕組みを支えることも考

えるべきである。

- ・次世代半導体プロジェクトの最終的なあるべき姿を定性的に描く必要がある。
画を描けるのは北大しかないと思う。

(以 上)